

# ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2013.9.20

# 31

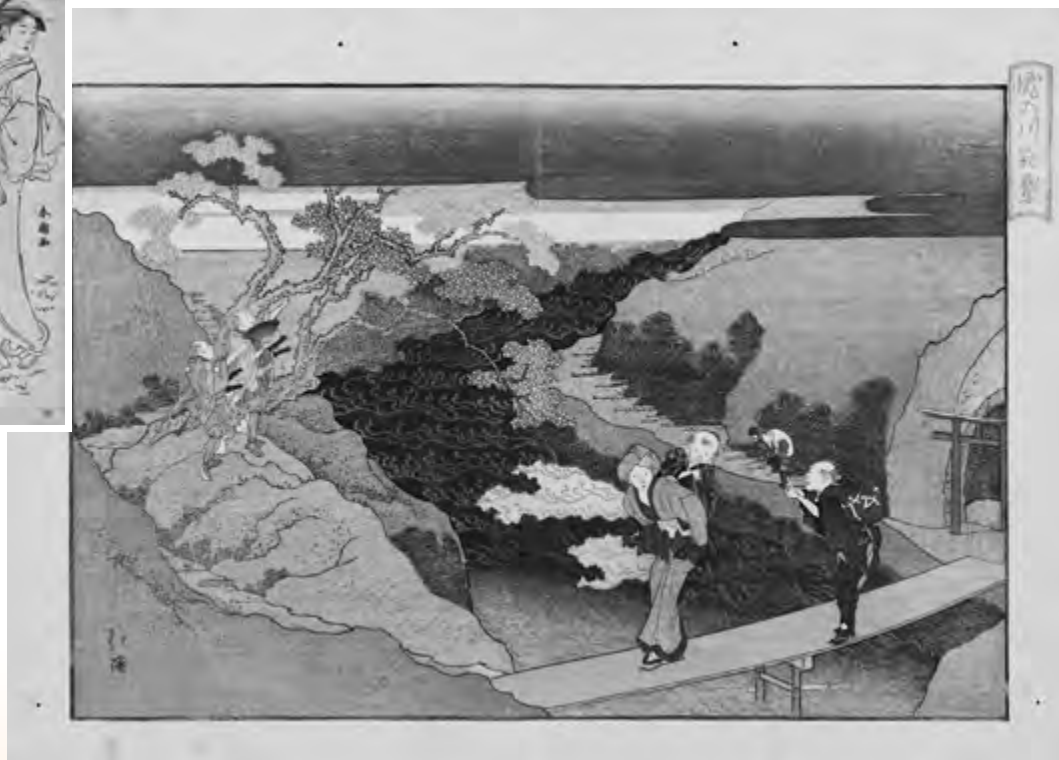
秋 期 企 画 展

## 名所物語

### 浮世絵にみる北区の江戸時代



勝川春潮「江都之五山 飛鳥山」



魚屋北溪「得吉方廻滝 滝の川紅葉」

会 期

平成25年10月22日(火)～12月23日(月・祝)

休 館 日

毎週月曜(11月4日・12月23日を除く)・11月5日

開 館 時 間

午前10時～午後5時

会 場

北区飛鳥山博物館 特別展示室・ホワイエ

観覧  
無料

# 名所物語 浮世絵にみる北区の江戸時代

近世の王子・飛鳥山・滝野川は、江戸の中心から約8kmに位置する花と緑の地として著名でした。このため18世紀中期以降に発達した多色摺り版画である浮世絵系版画の格好の画題となり、この地域を描く作品は昭和時代に至るまでの広い時代にわたり、総数はほぼ400点を数えます。

今回の企画展は、秀逸なコレクションで知られる伊藤紀之氏所蔵の浮世絵資料のなかから江戸時代に作られた約200点を中心に、北区の名所特性を明らかにする試みです。なお繊細な資料の保存環境に留意したため、展示期間を4期に分けて列品いたします。

秋の一日、のんびりとした江戸時代の名所の光景にふれてみてはいかがでしょうか。

1期	10月22日(火)～11月4日(月)
2期	11月6日(水)～11月20日(水)
3期	11月21日(木)～12月5日(木)
4期	12月6日(金)～12月23日(月)



歌川国周「江都八景之内 王子ノ落雁」



「ガラス絵 東都王子滝の川」

【協力】 伊藤紀之氏(共立女子大学名誉教授/国際浮世絵学会理事)

## 企画展記念文化財講演会 「名所と庭園」

日時：11月24日(日) 午後1時30分～午後4時30分  
 会場：北区飛鳥山博物館講堂  
 講師：伊藤紀之氏(共立女子大学名誉教授)  
 白幡洋三郎氏(国際日本文化研究センター教授)  
 申込締切：往復はがきまたは電子申請で11月12日(火)午後4時必着

## VOICE

### —博物館の環境を知る—

当館は緑豊かな飛鳥山公園内という恵まれた環境にありますが、それは一方で、外部の影響を受けやすいことも意味しています。

収蔵資料を保存するため、多くの博物館が年1回程度の「燻蒸」(博物館資料の殺虫・殺菌)を実施していますが、現在燻蒸で使用できる薬剤は毒性や環境負荷が大きいため、近年は「IPM」(Integrated Pest Management 総合的病害虫管理)という手法に切り替わりつつあります。燻蒸では容積を基準に一定量の薬剤を使用しますが、IPMでは施設の状況を把握した上で、さまざまな手法を組み合わせることで病害虫の防除をおこないます。

こうした流れの中、当館でも昨年から環境調査をおこなうようになりました。今年6月も収蔵庫まわりだけでなく博物館内いたるところで昆虫生息調査・菌類測定・温湿度調査

を実施しましたが、これにより当館は屋外から多くの昆虫が侵入することが確認されました。予想通りの結果と言えますが、なかには文化財に害を与える虫もわずかにいましたので、慌てずにはられません。

当館の場合、今後は開口部の隙間をできるかぎり塞ぎ、捕虫器等を設置することで、将来的に燻蒸で使用する薬剤量を抑えられる可能性が高まってきました。資料保全と環境保全が一致しないという博物館のジレンマは、館の状況を知ることによって少しずつ解消されようとしています。

(久保 瑛)



特定の昆虫を誘引するフェロモン・トラップ



# 「焼け野原からヤミ市、商店街へ」

大地  
水  
人

日々の買い物は、我々の生活に関わる大きな問題である。日本でのスーパーマーケットの出現は約60年前で、それ以前に庶民が買い物する場所といえば主に「商店街」であった。とくに昭和30年代～40年代前半頃は、行きかう人々でどの商店街も賑わっていた。

北区には、現在92の商店街が存在する。十条銀座商店街や赤羽スズラン通り商店街（LaLaガーデン）のような全蓋式アーケードを持つ大きな商店街もあれば、人の流れの変化によって店舗を減らし続ける商店街もあり、状況はさまざまである。規模の大小はどうであれ、商店街のひとつひとつが所在する地域と切り離せぬ関係を持っている。人と人との繋がりが希薄になっている今日、商店街はただ日用品を買うための場所だけでなく、地域コミュニティにとって重要な役割を果たしているのである。

当館では、平成25年7月20日～8月31日の期間中に、そういった失われた風景の映像や資料を展示し、夏休みの児童に向け「北区の商店街いま・むかし」として紹介した。さて、紹介した商店街の中で反響が大きかったのは赤羽一番街商店街であった。

JR赤羽駅の東口を出るとすぐに見える同地区は、北区の中で最も活気ある繁華街の一つである。初めて訪れる人にとって、この商店街の始まりが木造トタンぶき・バラック小屋のマーケットであったとは、俄かに信じがたいはずだ。そもそも、終戦直後の駅前東側は本町通りなどの地区が

焼失しており、「赤羽たんぼ」と呼ばれるほど活気がなかったのである（『新修北区史』）。その赤羽が北区の中で一番の繁華街になっていったのはなぜか。その答えはいわゆるヤミ市にある。

東京の終戦直後の食糧不足・物資不足は危機的であった。とくに昭和21年～22年（1946～1947）はすさまじく、その要因に、動員・徴兵の解除、兵員の帰還、疎開児童の帰京などによる人口の増加や、戦時下における生産力の低下、昭和21年（1946）の凶作などが挙げられる。東京都は昭和20年（1945）8月末から食料の備蓄の配給をするも、翌年の3月には遅れが始まった。6月には、最大20日を超える遅れがあり、そのうえ配給量も予定より少なかった。食糧統制下では個人が食糧を買い出しに行くことは禁止されていたが、やむを得ず近県に買い出しに行くものが東北本線にあふれた。それにまじってヤミ物資を都内へ運び込む担ぎ屋も出現した。終点の上野での取り締まりはとくに厳しかったため、東京の北の玄関・赤羽駅に担ぎ屋たちの動向が集中した。（その全盛期には鉄道公安官の取り締まりのたびに、駅のホームに白米が何十俵と積み上がったという）。彼らの動向に呼応するように、赤羽にはヤミ物資をさばくマーケットが作られ、その中で昭和21年12月に18の商店が構えられた。これが赤羽一番街商店街の前身である。戦災によってゼロになった場所が繁華街となっていくその始まりを知ると当時の人たちのしたたかさや復興への熱意を感じることができる。（人見）

## 企画展：この資料に注目！



### 歌川国貞「紅毛油絵 王子権現稲荷両社之図」

この浮世絵に描かれているのは王子稲荷神社なのですが、なんと江戸時代に西洋の油絵をイメージしたものとなっています。何よりも浮世絵の周囲には、洋画のタブローを飾る額縁のような文様が描かれていて、また画面は遠近法を使い神社の参道や石段の奥行きを表現しています。さらに画面を見ると、何やら外国語のような小さな文字が見えますが、これはれっきとした日本語です。

一体、なんて書いてあるのでしょうか。

答えは展示室でご覧になってご確認ください！



# 北区 今昔物語

## 江戸っ子のレクリエーション・スポット 王子

☆“北区今昔物語”は平成25年度 博物館実習生が中心となって作成しました。

現代の王子は JR 京浜東北線や都電荒川線、東京メトロ南北線が交差する交通の要所で、人が行きかう町といった様相を示しています。しかし時をさかのぼった江戸時代、王子は江戸の市中から二里ほどの距離に位置する近郊農村地帯で、自然豊かで風光明媚な場所でした。また、神社仏閣もあり、人気の観光スポットだったのです。ちょうど日帰り旅行ができる王子に、江戸っ子は四季を通じてやってきました。今でも町に残る江戸の面影をちょっとご紹介します。

### 春 受け継がれる吉宗の心意気 〈飛鳥山〉

桜の季節になると飛鳥山は大勢の花見客で賑わいますね。実はこの情景、今に始まったことではありません。今を遡ること江戸時代、八代将軍徳川吉宗が「飛鳥山を万人にとって気兼ねなく遊べる江戸庶民の憩いの地にしよう!」と思いついたことがきっかけなのです。

その当時、同じように桜の名所であった上野の花見は、寛永寺の寺社領だったため何かと制約が多く、太鼓などの鳴り物が許されませんでした。一方、飛鳥山の花見はそのような縛りは無く、老若男女、それぞれが自由に楽しんでいました。大勢が揃いの着物に花笠を手にして出かけたり、「目かつら」という仮面をかぶって変装したりと、大変賑やかなものでした。満開の桜の空の下、弁当を広げて酒を飲み、そして歌を歌う。現代の花見の楽しみ方とそんなに変わらないですね。

ストレスの多い生活を送っていた江戸っ子たち。この時ばかりはそんな日常を忘れて羽を伸ばすことができました。このような憩いの地を作った吉宗の心意気は、今の飛鳥山にも息づいています。



・江戸の花見 飲めや歌えやで楽しそう  
「東都名所之内 飛鳥山花見之圖」



・飛鳥山碑 吉宗の事跡を伝えます



・滝浴み 水量はちょっと誇張しているようです  
「名所江戸百景 王子不動之瀧」



・名主の滝 ポンプで水をくみ上げています

### 夏 王子の夏・滝浴みの夏 〈王子七滝〉

江戸の頃の王子の台地は地下水が豊富で、崖際から滝となって流れ落ちるものがありました。その数は多く、明治の頃には「王子七滝」と称されるようになりました。錦絵の題材になるほど、王子の名所として江戸っ子に親しまれていました。「名所江戸百景 王子不動之瀧」をよくみると、滝を眺める人や、滝壺に入る人、縁台で茶を飲んでいる人がいます。そう、江戸の街中にはない滝を眺てマイナスイオンを浴び、川風にあたりながら茶を飲んでリラックス、あるいは水に入って涼をとる。江戸っ子たちは夏の暑さを忘れるために“滝浴み”をしにやってきていたのです。

江戸っ子達に親しまれた王子の滝は地下水の減少と共に次第に無くなっていきました。しかし、名主の滝は今でも公園の中にその姿をみることができます。

“滝浴み”でマイナスイオンを浴びに試してみたい方がいますか。



# 秋 紅葉のある風景 〈滝野川の紅葉〉

春は桜の飛鳥山。秋といったら滝野川の紅葉といわれたように、王子を流れる石神井川のやや上流、滝野川は紅葉でとても有名でした。飛鳥山に桜を植えさせたのはご存知八代将軍徳川吉宗ですが、吉宗は桜だけでなくここ滝野川に楓も植えさせていたのです。まさに、四季を意識しての観光開発といえるでしょう。やがて紅葉寺との別名を持つ金剛寺を始め滝野川園・楓楽園などの紅葉狩りの庭園がつけられ、秋の観光スポットとして賑わいました。また、金剛寺の崖下には石神井川を臨む岩窟「岩屋弁天」があり、紅葉と相まって人気を博する名所でした。色鮮やかな紅葉と渓谷美が江戸っ子の心をつかんだようですね。

残念ながら今の滝野川には紅葉の庭園は残されていませんが、金剛寺（紅葉寺）と、紅葉橋という橋の名にその名残を知ることができます。



・秋の紅葉狩り 明治の頃も有名でした  
「武蔵百景之内 王子瀧の川」



・岩屋弁天跡 川もずいぶんかわりました

# 冬 人もキツネも稲荷に集う 〈王子稲荷〉

王子稲荷神社は、関東一円の稲荷の総本山としての格式をもち、江戸時代から多くの人々に親しまれてきました。世の中が安定し、参詣が楽しみの一つとなり、江戸から二里と日帰りができる名所として王子稲荷に多くの人を訪れました。

稲荷神への信仰が高まる中、その使いの狐も黙ってはいられません。大晦日の日の晩、関東中の狐が近くの榎の木に集まり装束を改め、王子稲荷を目指して歩きました。狐が歩いている道には狐火がぼつぼつとあったとか。人はその数を見て来年の農作物の豊凶を占ったそうです。

現在、この話を基に再現されたものが「王子・狐の行列」です。大晦日の晩に装束稲荷神社に集まった人達が狐の面をつけ、衣装を着て、王子稲荷神社を目指します。今の王子では、稲荷神より狐のほうが親しまれているみたいですね。



・装束榎に集まる狐 ここで装束を改めます  
「名所江戸百景 王子装束の木大晦日の狐火」



・王子稲荷の狐 とってもユニーク！

# むかし昔写真館

幕末から明治・大正・昭和に写された写真には、今にはない江戸の頃を彷彿とさせる王子の風景がみられます。



・明治の頃の飛鳥山 今の広場のあたり



・料亭扇屋 行楽客で賑わった料理屋の明治期の頃



・王子神社 戦災で焼失する前の姿



・滝野川の紅葉 明治の頃の石神井川と紅葉



・王子稲荷 石の階段は今も昔もかわらないですね



・石神井川の堰 かつてあった堰を写した絵葉書「瀧壱川観楓記念」のスタンプが珍しい

## 「北区と都内の富士塚めぐり」

富士山の世界遺産登録が話題となったこの夏。当館では、北区の富士講について学ぶ講座を6月30日に開催しました。

午前中は富士講や富士塚の構造についての座学。江戸時代に民間へ広まった富士山への信仰から、江戸市中や近郊に多数の富士塚が築かれました。北区にも複数の富士講が存在し、富士塚も築かれました。そのうち、十条富士塚と田端富士三峰講祭祀具は、北区の指定文化財になっています。

午後は、富士塚の实地見学。まずは十条富士塚へ。富士山の山開きに合わせて毎年6月30日・7月1日に行われる大祭は、地元の方たちに「お富士さん」の愛称で親しまれています。祭祀具を設える小屋が建ち、鳥居前では縁起物の麦藁蛇などを販売し、通りには露店が並んでなんとも賑やかです。講座参加者一同、富士講の石碑や小御嶽の祠、烏帽子岩を確認しながら富士神社の石祠のある頂上へ。富士塚に登り、「お富士さん」の賑いも実感し、江戸時代から現在まで続く十条地域での民俗信仰を体感されたようです。

次は台東区の下谷坂本富士塚へ。合目石のあるジグザグ道をたどって、二つ目の富士登山。最後は豊島区の長崎富士

# Event Report

塚へ。石碑や小御嶽の祠、胎内、天狗像などもあり、見所満載でした。

参加者からは、身近な歴史に触れられたとの感想を多数いただきました。十条富士塚は、一年中登拝可能です。皆さんも北区の富士山を訪れてみませんか。(田中)



お富士さんでにぎわう十条富士塚

## 写真に見る

### あの日あの時

## 西ヶ原一里塚と都電

時代を走り抜いてきた都電と、世の変遷を見守ってきた一里塚。動と静のコントラストが美しいこの写真は、昭和40年(1965)2月19日に北区西ヶ原にて撮影されたものである。現在この地に都電は通っていないが、昭和46年(1971)3月までは19系統と呼ばれる王子駅前～通り三丁目(東京八重洲)の路線が走っていた。一里塚付近を通過していくのが王子駅前行、写真手前の線路を通るのが通り三丁目行である。

都電はかつて庶民に欠かせない交通手段であった。大正初期から戦後まで道路交通の主役を果たし、最盛期の昭和30年代には軌道の総延長213km、系統数は41を数え1日あたり174万人の足となった。ところが自動車の急増とともに交通渋滞の原因となり、昭和40年代には次々と廃止に追い込まれ、唯一存続したのが現在の荒川線である。写真の2年前にはすでに杉並線が廃止されており、遅かれ早かれこの付近の景観が変わってしまうことを予期して撮影されたものと思われる。

西ヶ原一里塚は400余年の間この場所に留まってきた。一里塚とは、江戸時代に日本橋を起点として街道の1里(約4km)ごとに築かれた塚であり、西ヶ原は2里目である。地域の人々の努力により、撤去の難を乗り越え今に至る。しかし一里塚とて不変ではない。昭和末期に行われた整備により、大正5年(1916)建設の石碑「二本榎保存之碑」は現在の同じアングルからは植栽に隠れてしまった。新たな植え込みは丸く形を整えられ、車道との境には数段の石が積まれて、雑多な通りとは一線を画した存在となった。

人、駕籠、都電、自動車、様々な姿が塚の前を通り過ぎてきた。物言わぬ塚は今日も往来を見つめている。

(増田)



浦野栄一氏撮影

# あな やじり 多くの孔をあけた青銅製の鍬

今年の1～2月に行われた十条台遺跡群における発掘調査で、1点の弥生時代の銅鍬が出土しました。銅鍬とは青銅製の鍬のことで、日本では弥生時代から古墳時代にかけての時期にみられるものです。北区内ではこれまでも、同じ十条台遺跡群と田端不動坂遺跡において、それぞれ1点の銅鍬が出土しており、これが3例目となります。ただし、今回見つかったものは、これまでの2点の銅鍬とは少々様子が異なります。ご覧のとおり、小さなあな孔が6つあけられているのです。このような、複数の孔をあけた銅鍬のことを「多孔銅鍬」と呼びます。

多孔銅鍬には、形態的なこととは別に、もうひとつの特徴があります。それは、濃尾平野を中心

とする東海地域に分布の集中が認められるという点です。分布の中心地より東側にある関東地方では、これまでに神奈川県で2例の出土がみられるに過ぎませんでした。今回出土した多孔銅鍬は、東京都内で最初の事例であるとともに、多孔銅鍬としては今のところ最も東端に位置する出土例となります。このような分布状況からすると、おそらくこの多孔銅鍬は東海地域よりもたらされたものと考えられ、当時の他地域との交流を示す遺物の一つとして捉えられます。

(牛山)



写真提供 東京都埋蔵文化財センター



## 博物館インフォメーション



### 炎天下の夏休みわくわくミュージアム☆2013

北区飛鳥山博物館の夏の親子向け恒例イベント「夏休みわくわくミュージアム」が今年も終了しました。各種講座に参加してくれた親子のみならず、どうもありがとうございました。今年の夏は連日猛暑が続き…昨年に比べると、受付に来る親御さんもお子さんもぐったりしているのが印象的でした。



絵本・ぬり絵コーナー

特別展示室では展示「北区の商店街いま・むかし」を開催しました。常設展示室では資料名の穴埋めをする「ブラックコン吉を探せ!」を2クール、ホワイエでは夏休みの宿題の調べ物を想定した「調べものコーナー」と、海のディスプレイで飾り付けた「絵本・ぬり絵コーナー」を設置しました。

ちなみに同コーナーのぬり絵は、ハサミで切ったので貼るぬり絵です。今年は初めてコーナーのアンケートを実施しましたが、この当館オリジナルの「切って貼るぬり絵」が大変好評をいただいていることを知りました。



当館オリジナルの切って貼るぬり絵。40種ほどのさまざまなパーツがあります。

そして、一緒に「涼めて良かった。」との声が聞かれました。酷暑という言葉がびったりの夏、当館でほっと一息ついていたただけで大変うれしく思っております。来年も開催されるはずなので…また遊びに来てくださいね!

### 博物館実習生が今年も大活躍!

今年の夏も学芸員資格取得を目指す博物館実習生が当館活動のサポートしてくれました。博物館内部での仕事以外にも炎天下の野外での取材も行いました。実習生のみなさんおつかれさまでした。実習調査の成果を「北区今昔物語」でご覧いただけます。

### 人物往来

今年3月末に学芸員の安武由利子が退任し、後任として増田由貴が着任しました(専門:近世)。

今後、講座などで接する機会も増えると思いますが、よろしく申し上げます。



### 捨てないで!

昔の北区の様子が分かる写真・フィルム(8mm・16mmなど)を探しています!

みなさんのお宅に古い写真やフィルムはありませんか。戦前から昭和のもので、昔の北区の街並みや人々の暮らしが分かるようなものがあれば、北区の貴重な財産です。もしも整理・処分などをお考えの場合、ひとまず博物館までご一報していただけると幸いです。





## 学芸員リレーエッセイ

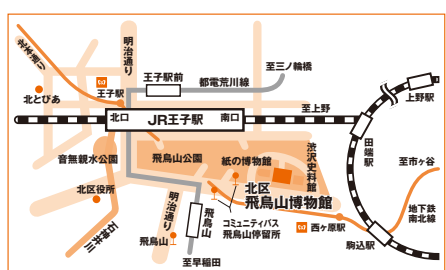
# 博物館いろは歌留多

JR王子駅中央口から飛鳥山の崖際につけられた長い石段を上り通勤していますが、その途上で季節ごとの動植物の気配を肌で感じるのが日課となっています。今夏これまでにない不思議な経験をしました。飛鳥山では7月に入るとセミの声が聴こえるようになります。例年でいえば、まずはニイニゼミ。7月後半の梅雨明けぐらいまでは続き、この鳴き声で夏の訪れを意識します。子供たちが夏休みに入る頃にはミンミンゼミやアブラゼミが鳴き始め、本格的な夏の到来を感じます。ところが、今年はそうした推移がなかったのです。7月上旬にニイニゼミの声が左程聴けず突然ミンミンゼミが鳴き始めました。東京では7月6日に早くも梅雨明け宣言が飛び出し、翌日から10日連続で最高気温が34度以上を記録しました(内猛暑日は計5日間)。すると、通例もう少し後になって登場するはずのミンミンゼミが元気よく鳴き始めたのです。急に上昇した外界の気温によって、ミンミンゼミの羽化が促進されたのでしょうか。7月中下旬になり再び天候が悪化し気温が下がり始めたと思うと飛鳥山のミンミンゼミの声もあまり聴こえなくなりました。季節の訪れ方は昆虫の発生時期にも影響するのかと感じた夏です。(中野)

## 利用のご案内

**【開館時間】**  
午前10時から午後5時  
※観覧券の発行は午後4時30分まで

**【休館日】**  
毎週月曜日  
(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)  
年末年始(12月28日～1月4日)  
このほかに臨時休館日があります。



- ・JR 京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・都電荒川線 飛鳥山停留場より徒歩4分
- ・都バス 草64、王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・北区コミュニティバス 飛鳥山公園停留所より徒歩1分
- ※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。
- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

**【常設展観覧料】**

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者(65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円

## 編集後記

今年8月の東京都は連日30℃越えの真夏日が続きましたが、この「ばいす」が発行される9月末頃は秋の涼しい風が漂ってきているころでしょうか。秋が深まると飛鳥山公園の紅葉も美しくなります。是非散策にいらっしやってください。そして当館の秋期企画展を是非ご覧になってくださいませ。浮世絵の中の紅葉も楽しんでいただけたらと思います。(人見)

## 平成25年度下半期の主な催し物

- 特別展覧会「第12回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9/14～10/14)  
〔関連イベント〕  
・「陶芸を楽しみ学ぶ講座」(9/21)  
・「人間国宝に学ぶ! 鍛金体験講座」(9/28)  
・「作家が語る! 作品解説」(9/22・29)
- ミュージアムトーク・常設展示の宝物たち「軍施設の建造物」(9/23)
- 飛鳥山3つの博物館合同企画 GO! ゴー! ミュージアム2013「勾玉ストラップをつくろう!」(10/5・6)
- ミュージアムトーク・常設展示の宝物たち「ガラス小玉の鋳型」(10/19)
- 秋期企画展「名所物語 浮世絵に見る北区の江戸時代」(10/22～12/23)  
<1期>10/22～11/4 <2期>11/6～11/20  
<3期>11/21～12/5 <4期>12/6～12/23  
・企画展記念文化財講演会「名所と庭園」(11/24)
- 東京文化財ウィーク2013 参加事業「北区文化財めぐり(王子・西ヶ原編)」(10/20)
- 野外講座「歩く勉強会～いま下郷用水をたどる」(10/27・11/9全二日)
- 野外講座「第2回 いざ、鎌倉! 歩く編」(10/29・30全二日)
- 東京文化財ウィーク2013 参加事業「東京9区文化財古民家めぐり 旧松澤家住宅解説会」(11/17)
- ミュージアムトーク・常設展示の宝物たち「畿内産土師器」(11/16)
- 講座「第2回 いざ、鎌倉! 学ぶ編」(11/23)
- 講座「博物館の歴史を学ぼう。」(12/1)
- 野外講座「幻の江戸東京野菜・千住葱の産地を訪ねる」(12/6)
- 野外講座「東京最古の古民家を見る」(12/7)
- 講座「一緒に読み解く 北区のすり物」(12/8)
- 講座「喜劇駅前開運 上映会」(12/14)
- ミュージアムトーク・常設展示の宝物たち「平塚縁起絵巻の巻」(12/21)
- ミニ展示「あすかやま十二支ーうまを寿ぐー」(12/21～1/13)
- 小学校対応事業「来て、見て、さわって! 昔の道具展」(1/11～2/28)
- 講座「豊島宮城家文書を読む」(1/18・19全二日)
- 講座「第23回新聞から読む考古学ー2013年下半期を振り返るー」(1/26)
- 講座「考古学講座 考古学を始めよう」(2/9・22・3/8・9)
- 講座「学校史料から地域をみる」(2/15)
- 講座「演劇史料から地域をみる」(2/16)

※催し物は仮称、( )内の実施日は予定です。  
詳細は、当館発行の催し物案内、北区ニュース、ホームページをご覧ください。

北区飛鳥山博物館だより

### ばいす31

発行日 平成25年9月20日  
編集・発行 北区飛鳥山博物館  
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3  
TEL. 03-3916-1133  
印刷 東京リスマチック株式会社